

◎勝利の経典「御書」に学ぶ 阿仏房御書（宝塔御書）

仏法は「貴賤上下をえらばず」です。社会的立場の違いなどに全く左右されません。「御義口伝」に「己が身を見るは三千具足の塔を見るなり己の心を見るは三千具足の仏を見るなり」（全 797・新 1111）と仰せのように、宝塔はわが身、その中の多宝如来はわが心であるとも拝することができます。

ここに最高の人間尊敬の思想があります。万人の生命の尊厳を知らず、他人を差別する人は、実は自分の尊厳を傷つけている。反対に、万人を大切にすることは、自分の宝塔を最も輝かせているのです。

（『勝利の経典「御書」に学ぶ 10』64 ページ）

◎調和と希望の仏法 「人間の宗教」の時代へ

御本尊を受持する私たちは、いつ、どこにしようと、自身の胸中に宝塔を打ち立て、今いる場所を常寂光土（仏の永遠の国土）にすることができます。

そして、自分自身の生命の宝塔を打ち立てるだけでなく、他者の生命の宝塔をも打ち立てていくのです。

そのための御本尊であり、信心です。それを成し遂げるのが、創価の師弟であり、異体同心の団結です。広宣流布の組織です。

あの地にも、この地にも、生命尊厳の証である宝塔を林立させることが、最も確実にして根源的な平和への直道なのです。

（『調和と希望の仏法 「人間の宗教」の時代へ』63 ページ）